

福島県立医科大学 小児科学講座および小児腫瘍内科のスタッフ



小児科部長(教授)
郷 勇人
平成6年 福島県立福島高等学校卒業
平成13年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 新生児
研究分野
1) 新生児慢性肺疾患
2) マイクロRNA
3) 新生児播種性血管内凝固症



周産期・小児地域医療支援講座(教授)
桃井 伸緒
昭和54年 福島県立福島高等学校卒業
昭和60年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 小児循環器
研究分野
1) 先天性心疾患
2) カテーテル治療



准教授
橋本 浩一
昭和60年 福島県立安積高等学校卒業
平成4年 福島県立医科大学卒業
平成8年 福島県立医科大学大学院修了
臨床専門分野
1) 感染症
研究分野
1) ウイルス感染症の診断と治療
2) 呼吸器感染症の病態解明



准教授
佐藤 晶論
昭和63年 福島県立相馬高等学校卒業
平成8年 福島県立医科大学卒業
平成12年 福島県立医科大学大学院修了
臨床専門分野
1) 小児感染症
研究分野
1) インフルエンザ(ウイルス感染症)の病態解明と制御
2) ウイルス感染症における免疫応答
3) 中枢神経感染症の病態解明



講師
青柳 良倫
平成3年 福島県立福島高等学校卒業
平成12年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 小児循環器
研究分野
1) 先天性心疾患
2) 川崎病



小児腫瘍内科部長(教授)
佐野 秀樹
昭和62年 福島県立津波高等学校卒業
平成6年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 小児血液腫瘍(造血幹細胞移植も含む)
研究分野
1) 小児固形腫瘍、神経芽腫の病理学的研究
2) 小児原性腫瘍に対する抗がん剤多剤併用療法の多施設共同床研究



小児腫瘍内科副部長(准教授)
望月 一弘
平成元年 長野県立諏訪清陵高等学校卒業
平成9年 福島県立医科大学卒業
臨床専門分野
1) 小児血液腫瘍
2) 造血幹細胞移植
研究分野
1) 新規がん免疫療法の開発
2) 造血幹細胞移植後の免疫病態の解明

福島県立医科大学 ふくしま子ども・女性医療支援センターのスタッフ



教授
横山 浩之
昭和54年 宮城県仙台第一高等学校卒業
昭和62年 東北大学医学部卒業
平成6年 東北大学大学院医学系研究科修了
臨床専門分野
1) 小児神経学
研究分野
1) 子どもの行動異常(発達障害、精神障害)の治療的介入の開発
2) 上記の早期発見、早期介入に関するシステム構築の研究



特任教授(非常勤)
清水 直樹
現勤務先
聖マリアンナ医科大学小児科学
臨床専門分野
1) 小児科学
2) 救急医学
3) 集中治療医学
4) 蘇生科学



特任准教授(非常勤)
新津 健裕
現勤務先
埼玉県立小児医療センター
集中治療科
臨床専門分野
1) 集中治療医学
2) 小児科学
3) Critical Care Outreach



特任准教授(非常勤)
齊藤 修
現勤務先
東京都立小児総合医療センター
集中治療科
臨床専門分野
1) 集中治療医学
2) 麻酔科学
3) 小児科学



特任助教(非常勤)
荻原 重俊
現勤務先
手稲区立仁会病院
小児科/小児集中治療科
臨床専門分野
1) 集中治療医学
2) 麻酔科学
3) 小児科学

連携施設のご案内

福島県内に17箇所の
連携施設があります。

2 大原総合病院



〒960-8611 福島県福島市上町6-1
TEL: 024-526-0300

3 福島赤十字病院



〒960-8530 福島県福島市八島町7-7
TEL: 024-534-6101

4 寿泉堂総合病院



〒963-8585 福島県郡山市駅前1-1-17
TEL: 024-932-6363

5 太田西ノ内病院



〒969-1793 福島県伊達郡国見町大字塚野目字三本木14
TEL: 024-585-2121

6 星総合病院



〒963-8501 福島県郡山市向河原町159-1
TEL: 024-983-5511

7 福島県総合療育センター



〒965-8041 福島県郡山市富田町字上ノ台4-1
TEL: 024-951-0250

8 坂下厚生総合病院



〒969-6593 福島県河津郡会津坂下町字柳田2210-1
TEL: 0242-83-3511

9 公立岩瀬病院



〒962-8503 福島県須賀川市北町20
TEL: 0248-75-3111

10 国立病院機構福島病院



〒962-8507 福島県須賀川市芦田塚13
TEL: 0248-75-2131

11 竹田綜合病院



〒965-8585 福島県会津若松市山鹿町3-27
TEL: 0242-27-5511

12 県立南会津病院



〒967-0006 福島県南会津郡南会津町永田字風下14-1
TEL: 0241-62-7111

13 白河厚生総合病院



〒961-0005 福島県白河市豊地上弥次郎2-1
TEL: 0248-22-2211

14 いわき市医療センター



〒973-8555 福島県いわき市内郷御懸町久世原16
TEL: 0246-26-3151

15 塙厚生病院



〒963-5493 福島県東白川郡塙町大字塙字大町1-5
TEL: 0247-43-1145

16 公立相馬総合病院



〒976-0011 福島県相馬市新沼字坪ヶ迫142
TEL: 0244-36-5101

17 南相馬市立総合病院



〒975-0033 福島県南相馬市原区高見町2-54-6
TEL: 0244-22-3181



公立大学法人
福島県立医科大学

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
TEL 024-547-1111(代表) <https://www.fmu.ac.jp>

【車】
東北自動車道 福島西 I.C.より約13分、
福島松川スマート I.C.より約8分

【バス】
JR福島駅東口バス乗り場(5番または6番ポール)より乗車、「医大病院」または「医科大学前」下車(約36分)

公立大学法人
福島県立医科大学

専門研修
プログラム

小児科 専門医コース

仲間たちと共に目指す小児医療のプロフェッショナル

福島県立医科大学附属病院の専門研修プログラムでは、基本領域専門医のいずれも取得できる体制を整えています。



専門医研修（専門研修プログラム）

基本領域 3年間

コース名

小児科専門医コース

プログラムの特徴

①1～2年目

18か月間の基幹研修病院（福島県立医科大学附属病院）および6か月間の専門研修関連施設A（太田西ノ内病院、いわき市医療センター、竹田綜合病院の何れか）における研修により、感染症や1～2次救急などの一般小児診療と、3次救急、集中治療、新生児・未熟児、循環器、神経、血液・腫瘍、腎・内分泌・代謝性疾患等の特殊な疾患に対する初期対応が可能になる。

②3年目

地域センター病院である専門研修関連施設B（竹田綜合病院、大原綜合病院、白河厚生総合病院、いわき市医療センターの何れか）における研修と、地域総合病院である専門研修関連施設C（星綜合病院、寿泉堂綜合病院、公立相馬綜合病院、公立岩瀬病院の何れか）における研修により、地域総合小児医療、1～2次救急、小児保健、予防接種から、救急・救命、感染症・アレルギー、新生児、循環器、血液・腫瘍、腎・内分泌・代謝、神経・発達・療育などの専門領域に至るまでの小児医療全般について、小児科専門医に必要な知識と技能を習得することができる。

到達目標

3年間の専門医研修により、地域総合小児医療、1～2次救急、小児保健、予防接種から、救急・救命、感染症・アレルギー、新生児、循環器、血液・腫瘍、腎・内分泌・代謝、神経・発達・療育などの専門領域に至るまでの小児医療全般について、小児科専門医に必要な知識と技能を習得し、小児の総合医としての能力を身に付け、小児科専門医を取得する。

プログラムの概要

修得項目

1～2年目

大学にて研修。新生児・未熟児、循環器、血液・腫瘍、腎・神経、感染症、集中治療の6グループで各グループ3か月程度の研修を行い、比較的まれで重症な疾患について知識を深め、あらゆる疾患の初期対応が可能になり、その後のおおよその診断・治療計画が立案できるようになる。また、小児の2～3次救急、集中治療を経験し、急性重症疾患に対する初期対応が可能になる。さらに、乳幼児健診や予防接種などの実践を通じ、小児保健を理解する。
大学における18か月のローテーション研修の途中、あるいは終了後、順次、連携施設A群の病院にておおよそ6か月の新生児・未熟児治療を実践する。超未熟児や重症仮死などの重症例を主治医として経験することにより、あらゆる新生児疾患に対し適切な初期対応が可能になる。

3～4年目

比較的大規模な小児科を有し、小児の高次救急や新生児医療から幅広い専門医療を提供している連携施設B群の病院の1つと、中規模の小児科を有し、主に地域総合医療や救急医療を実践している連携施設C群の病院の1つにおいて、それぞれ概ね1年間研修することにより、小児保健、小児一次診療から、高次救急診療、慢性疾患診療に至るまで、小児科専門医に必要な幅広い知識と技能を習得する。

指導体制 指導医数 **26人**

受け入れ可能人数

10人

修了後に取得可能となるサブスペシャリティ領域

- 小児循環器専門医 ●小児神経科専門医
- 小児血液・がん専門医 ●周産期専門医 ●腎臓専門医
- アレルギー専門医 ●感染症専門医

専攻医の声

目標となる先生方を身近に感じながら充実した研修を行っています



専攻医1年目
いそめ みく
磯目 実紅

2024年度から福島医大小児科専攻医となりました磯目実紅と申します。若手医科大学を卒業後、竹田綜合病院で2年間の初期研修を行いました。小児科は子どもたちの成長を見届け、全人的な医療を提供できるという点で非常に魅力的な科だと思います。初期研修を通して小児科の先生方と出会い、その診療に感銘を受け私も小児科を志すようになりました。

当院の研修プログラムは、大学で18ヶ月研修し、6ヶ月間のNICU研修、市中病院での2年間の研修を通じて一般的な疾患から希少な疾患、高度医療を幅広く学ぶことができます。上級医の先生方との距離が近く、わからないことやできないことに対して丁寧に教えてくださいます。戸惑うことも多い日々ですが、先生方のお陰で自分の成長を感じることができ、充実した研修の日々を送っています。ロールモデルとなる先生方が多くいることも、当院の研修プログラムの魅力の一つだと思います。臨床をしながら子育てをしている先生方、それに加え研究をしている先生も多くいらっしゃるの、目標となる姿を身近に感じながら研修することができます。

まだまだ未熟者の私ですが憧れの先生方からご指導いただき、そして子どもたちの笑顔に癒されながら、一人前の小児科医になるべく日々励んでいます。皆様と一緒に働けることを楽しみにしています。ぜひ見学に足を運んでみてください。



故郷で未来ある子どもたちのために働きたい！



専攻医1年目
すずき けんご
鈴木 健悟

みなさんこんにちは。2024年度から福島医大小児科専攻医となりました鈴木健悟です。私は福島医大を卒業後、星綜合病院で初期研修を行いました。当初から小児医療に興味がありましたが、初期研修の中で多くのお子さんやご家族と関わり、生まれ育った福島県で未来ある子どもたちのために働きたいという気持ちがより強くなり入局しました。

福島医大の小児科専門研修プログラムでは、最初の2年間で大学病院での循環器、腎・神経、血液・腫瘍、小児集中治療(PICU)、新生児(NICU)といったそれぞれのグループのローテートと、半年間の市中病院でのNICU研修を行います。その後、県内の各指定病院で2年間の一般小児診療を経験し専門医取得を目指します。大学での高次病院での研修では専門的な治療が必要となる重症疾患を通して各専門分野について学ぶことができ、市中病院では救急診療や定期外来を通して、common diseaseへの対応だけでなく子どもたちの成長や発達についてのサポートもできるようになります。

最後に小児科の魅力的な点をいくつかご紹介します。先生方はとても優しく、お子さんを大事にする先生や女医さんも多いため、働きやすい職場であると言えます。そして何より、朝は子どもたちの元気な「おはよう」で1日が始まり、子どもたちの笑顔で1日を終わることができます。私たちも日々子どもたちに元気をもたらしながら仕事に励んでいます。ぜひ一緒に私たちと働きましょう。



先輩からのメッセージ

子育てしながら働きやすい職場です



福島県立医科大学
小児科学講座 助手
いぬち ももみ
井口 桃美

私は2018年に福島県立医科大学小児科に入局しました。これまで大学病院、関連病院での研修を行い、現在は再び大学の腎臓・神経グループで学んでいます。

大学では、循環器、神経、血液・腫瘍、腎臓、新生児(NICU)、集中治療(PICU)の各グループで研修を行いました。県内の重症な患者さんが集中するので難しい症例が多いですが、その分さまざまな経験を積むことができると感じています。

私は出産・育児のため研修を2年間で中断しましたが、子どもと過ごす時間はとても有意義な時間でした。原始反射や運動発達の経過を見たり、離乳食を作ってみたり、乳児湿疹に悩んだり、小児科医としての経験値も少し上がったのではないかと思います。

とはいえ、医師として2年間のブランクは不安もかなり大きかったのですが、周囲のサポートもあり復帰後も仕事と子育てを両立できています。復帰のタイミングもそれぞれで、私は長くお休みをいただきましたが最短で復帰する先生もいます。それぞれの家庭環境によって働き方の選択肢もあり、子育てと両立しやすい環境だと思います。医局には子育て中の同期や先輩・後輩も多く、ママ・パパとしての会話が嬉しいことも働く中での癒やしとなっています。

小児科診療は幅が広く勉強することが多いですが、子どもたちのために頑張りたいという仲間と共に研鑽する日々はとても充実しています。未来ある子どもたちのために、みなさんと一緒に働ける日を楽しみにしています。



赤ちゃんとそのご家族のために



福島県立医科大学
小児科学講座 助手
むなかた みく
宗像 未来

私は、川崎医科大学を卒業後、初期研修より地元である福島県に戻り、2020年4月に福島県立医科大学小児科学講座に入局しました。2023年小児科専門医を取得し、2024年4月より、小さくても力強い赤ちゃんのために尽力したい思いで、新生児科分野を専攻しています。

当院の小児科専門医プログラムでは、まず大学病院で循環器、神経、血液・腫瘍、腎・内分泌、感染症、小児集中治療(PICU)の各分野を3か月ずつ回り、新生児集中治療(NICU)を大学と地域で合計9か月研修を行います。その後、市中病院での研修を経て、サブスペシャリティに進んでいきます。

大学病院では、重篤、または希少疾患が多く、難しい症例が多いですが、各分野の専門医の元、多様な疾患や検査・治療法に触れることができる貴重な時間となります。市中病院では、外来、入院、救急対応を上級医の指導の元、初めて一から主治医として対応し、小児科医としての基礎、そしてより子どもとご家族の生活に根差した医療を学ぶことができます。

このように、当講座のプログラムでは、大学病院と市中病院を通じて、common diseaseから高度医療まで幅広く学ぶことができます。

小児科領域は、もちろん大変なこともあります。それ以上に子どもたちとそのご家族から、多くの幸せを感じられる分野です。ぜひ小児科へ見学に来てみてください。

